

No.1958

4月11日例会	プログラム	「雑誌月間に因んで」	委員長	三宅 一昌君
4月18日例会	プログラム	「社会奉仕活動について」	委員長	三宅 保昭君
4月11日のメニュー	・白身魚のムニエル トマトソース ・かぼちゃのスープ ・季節のサラダ ・イチゴのムース ・パン ・コーヒー			

前回（4月4日）例会記録

出席報告	会員総数	36名(内出席規定適用免除者2名)	出席者数	22名	欠席者数	12名	出席率	64.71%	前回補正率	82.35%
	前回補正者	東川君								
	欠席者	藤原君 花岡君 井上君 岸本君 仲田君 中山君 大久保君 小野田君 白石君 富永君 山田(次)君 山田(孝)君								

来訪者 田中 博文様（アクセスプランニング）

会長挨拶

ロータリーカレンダーでは、4月は「ロータリー雑誌月間」です。ロータリー雑誌がなければ、世界のロータリーの活動を知る事は出来ません。又、ロータリーの雑誌には、新しい奉仕活動の事例が詰まっています。ロータリーには3大義務があります。まず、1番目は「会費の納入」です。2番目が「例会出席」、3番目は「ロータリー雑誌の購読」です。購読ですので、購入して読まねばなりません。毎月の「ロータリーの友」に目を通しましょう。

会長報告

- ・ 本日は4月第1例会ですので、例会終了後理事役員会を開催いたします。理事役員はお残り下さい。

幹事報告

- ・ 例会終了後理事会及び40周年記念式典の委員長会議を行いますので関係の方は出席よろしくお願い致します。
- ・ 森下ガバナー事務所より『友』インターネット速報No.329が届いています。
- ・ RIより国際大会における信任状証明書及び投票代議員カード提出の依頼が届いています。
- ・ 鳥居ガバナー・エレクト事務所より2008-2009年度RI会長主催会議(会員増強)開催の案内が届いています。
- ・ 岡山旭川ロータリークラブよりロータリー活動の連携・友好を深める会(案)開催の案内が届いています。
- ・ 他クラブの週報・例会変更通知につきましては閲覧いたします。

第11回定例理事役員会議事録 4月4日

- ・ ほほえみマリン大使実行委員会への協賛金について (例年通りで 承認)
- ・ 例会変更の件(5/2取り止め・5/23例会場の変更 マリホテル) (承認)
- ・ 2007年手続要覧の購入について (購入部数については会長・幹事に一任)
- ・ 5/24大阪リバーサイドRCの来玉について (40周年実行委員会にて決定)

委員会報告

- ・ 親睦・家族委員会(三宅孝治委員長): 誕生日祝 白石君3日 結婚記念日祝 中山君1日、大久保君3日、島田君19日、立石君29日、三宅(一)君30日
- ・ 玉野RC40周年記念実行委員会(藤田委員長): 来賓の方の出欠はほぼ出そろいましたので、玉野RCの会員の方の出欠を取らせて頂きますので、出欠表が回りましたらご記入下さい。今回は、会員本人さんと奥様のご出席に対してです。プログラムを今考えておりますが、その中で各表彰も考えております。次回の例会で決まったところまで報告させて頂きます。

スマイル・ボックス

- ・ 松尾会長 - ハイロー会で、年齢差で1位になりました。
- ・ 高橋(征)君 - おかげさまで、創立50周年を迎えました。
- ・ 石川君 - 3月30日、東兎ヶ丘でお世話になりました。

- ・宮原君 - 本日、卓話いたします。
- ・立石君 - 結婚記念月。 ・島田君 - 結婚月。 ・三宅(照)君 - 遅刻。

プログラム 「自然科学あれこれ」 宮原 浩平君

最初にお知らせ致したい事がございます。この9月に、事務局を担当して頂いておりました近俊さんが宇野港土地を退職されます。先ではございますが、事務局の移転と事務員の方の手配をしなくてはなりません。早めにご検討頂ければと思っております。宜しく申し上げます。

今日は、ある一冊の本をコピーして参りました。その話の前に、5年前になりますが、卓話の中での宿題があるのですが、私には両親がおりました。古い方は覚えておられる話ですが、その両親にも両親がおられました。そうやって数えて参りますと、30代位さかのぼれば、先祖は10億人位の計算になります。ありえない話ですが、未だに私には理解出来ません。どなたか、答えを教えてくださいたいと思います。

話を戻しますが、本日は地球温暖化の話をして頂きます。温暖化がどんどん進むと海面水位が上昇して水没し宇野港土地は倒産するという様な事を申し上げた覚えがございまして。温暖化が進んで北極・南極の氷が解け海面が上昇すると思われる方は何人いらっしゃいますでしょうか。この本によりますと、今から24年前の某新聞に「世界の平均気温が15度から18度になり、この結果として極地の氷の融解が加速度的に進む事によって、海岸都市の一部が水没する」というものがありました。これが、地球温暖化騒ぎの発端になったとあります。実際は0.2度しか上がっておらず、その15倍にするのは如何なものかと書いてあります。また、世界の平均気温は上がっても、実際の南極の気温は下がっているともあります。北極はというと、氷が海水の上に浮いている状態で、この場合は「アルキメデスの原理（浮力の原理）」から、温度が上がろうが下がろうが、海面水位は上がるとは考えられないとしております。水に浮いた氷が解けると氷の体積が小さくなり、ちょうど海面水位の上に顔を出している部分が体積としては無くなるという事です。南極はと言うと大陸の上に氷があるので、氷が解ければ海面水位は上昇するが、もともと氷点下50度の世界なので、少し位気温が上昇しても氷は解けないと言われております。

ですから、北極・南極の氷が海面水位の上昇に関係するという話は全く根拠がないという事です。

国連に、「気候変動に関する政府間パネル(IPCC: Intergovernmental Panel on Climate Change)」という機関があります。これは、世界各国がお金を出し合って国連に作った、地球温暖化を専門に研究する機関です。IPCCには3つの作業部会があり、世界有数の科学者が参加し、地球の温暖化が進んでいるのか、温暖化が進む原因は何か、そして、地球の温暖化が進んだら何が起こるのかを日々、検討しております。そのレポートには、「北極の氷が解けたら海面水位がどうなるのか」と言う事は書かれておりません。南極の方は、いろいろな角度から予測しているが、平均的な予測としては、「南極の周りの気温が高くなると、僅かだが海面水位は下がる」とあります。又、日本政府がお金まで出して研究を依頼しているIPCCの報告は、日本にどう伝えられたのかという事になりますと、環境省の環境白書では驚いた事に、報告を日本語に訳して「地球が温暖化すると極地の氷が解けて海面水位が上がる」と書いてあります。環境省の日本語訳は原文と全く逆になっており、それに憤慨した1人の学生が、早速、環境省の係官に連絡をしたところ、「IPCCの報告書が長かったので、それを短い文章にしたらこうなった」と返って来たそうです。IPCCの報告書は英語で文章は長い。環境省の役人は英語が出来なかったのか、根気が無かったのだろうかと思えるばかりです。年配者なら「役人はそんなものだ」と飲み込む事も出来るが、若者には憤慨も無理ないだろうという事です。

環境白書は、1980年から約28年間、間違っただけで書いていた様で、最近のものはどうなのでしょう？意図的な詐欺であり、悪質な世論操作であるとこの本では書かれております。

私は、今の様な生活水準を保てば、すでに遅いのではないかと思います。去年までは、20~30年先の状況を見られないのが残念と思っておりましたが、もしかしたら、あと10年位で見られてしまうのではないかと思います。